

第3次行財政改革計画の取組結果

5つの実行

1. 市民ニーズをしっかりと把握します。

1 - 1 積極的でわかりやすい情報提供	
ア 情報提供の充実	市公式ウェブサイトにおいてコンテンツの内容充実を図り、より使いやすいホームページづくりをすすめました。 ・「各区の情報」「市の組織(局室)」のページの公開開始 (平成19年度) ・情報分類の見直し・整理の実施(平成20年度) ・動画配信の開始(平成21年度) ・トップページデザイン・レイアウトの変更等大規模な改善の実施(平成22年度)
イ 総合案内機能の充実	市民からの電話などでの問合せに応じて市政情報を提供する総合的な窓口として、コールセンター「名古屋おしえてダイヤル」を平成19年度に開設し、運営しました。 (平成19～22年度) 上下水道局の電話総合窓口としての「お客さま受付センター(名水ダイヤル)」において、ワンストップサービスの推進、IT技術を活用した迅速な対応などによるお客さま満足度の向上に努めました。(平成19～22年度)
1 - 2 市民ニーズを把握する調査の充実	
ア 市民の意識調査の充実	「市政世論調査」「市政アンケート」「ネット・モニターアンケート」について、実施後2年にわたって施策の反映状況を調査し、その結果を公表しました。(平成19～22年度)
イ 地域の意見を吸収する連絡体制の充実	「地域担当制」などによる職員の各種地域行事への参加や、区民へのアンケートの実施などを通じて、地域意見の集約、区政情報の周知を行い、区政運営への反映に努めました。(平成20～22年度)

2. 市民の皆様とともに市政をすすめます。

2 - 1 市政への市民参画の推進

ア 市民参画の 機会拡大	「市政出前トーク」への参加を促進するために、市民により身近なテーマの充実を図りました。（平成 19～22 年度） パブリックコメントを実施し、4 年間で 46 件の計画等の策定に、市民の皆様から寄せられたご意見を反映しました。 <table><tr><td>年 度</td><td>19 年度</td><td>20 年度</td><td>21 年度</td><td>22 年度</td><td>合 計</td></tr><tr><td>件 数</td><td>15 件</td><td>11 件</td><td>9 件</td><td>11 件</td><td>46 件</td></tr></table>	年 度	19 年度	20 年度	21 年度	22 年度	合 計	件 数	15 件	11 件	9 件	11 件	46 件
年 度	19 年度	20 年度	21 年度	22 年度	合 計								
件 数	15 件	11 件	9 件	11 件	46 件								
イ 審議会委員への公募制の導入推進	平成 17 年度には 4 審議会において公募制を導入していましたが、「名古屋市審議会の委員の選任に関する要綱」に基づき、公募制の導入に努め、平成 22 年度では 20 審議会において導入しています。												

2 - 2 市民との協働によるまちづくりの推進

ア 協働による まちづくり の推進	【安心・安全で快適なまちづくり】 安心・安全・快適まちづくり活動補助金の交付をはじめ学区が主体的に取り組むイベント、キャンペーンなどを支援しました。(平成 19～22 年度) 路上禁煙地区(名古屋駅・栄・金山・藤が丘)において、路上禁煙等指導員によるパトロールを毎日実施し、路上禁煙の徹底に努めました。(平成 19～22 年度) 路上禁煙キャンペーンなど各種イベントにおいて啓発活動を実施しました。(平成 19～22 年度) 空き缶などの投棄を防止するため、ポイ捨て防止パトロールを実施するとともに、名古屋クリーンパートナー制度を通して、ポイ捨て物の回収活動及びポイ捨て防止の啓発活動を推進しました。(平成 19～22 年度) 地域住民との協働により、犬のふん害防止の巡回パトロールを実施しました。(平成 19～22 年度) 全市一斉“クリーンキャンペーン・なごや 2007～2010”において、地域団体が実施する「らくがき消し隊」活動を支援しました。(平成 19～22 年度)
----------------------------------	--

ア 協働によるまちづくりの推進(つづき)

水道メータ検針員が検針時に防犯腕章を着用し、地域における街頭犯罪の防止に寄与する取り組みを実施しました。
(平成 19～22 年度)

【区民との協働まちづくり】

区民と区役所が協働で、区の個性を伸ばすまちづくり事業などを実施しました。
・平成 19 年度 96 事業、平成 20 年度 92 事業
(平成 21 年度からは「自主的・主体的な区政運営」において実施)

【地域で支えあう福祉の仕組みづくり】

地域福祉リーディングモデル事業として人づくり応援や活動資金応援を実施することで、人材の養成、活動の立ち上げ、活動の安定的な継続に対して支援しました。
・福祉のまちづくりリーダーの養成や地域福祉型福祉事業への助成を実施しました。(平成 19～21 年度)
・人づくり応援事業や活動資金応援事業を実施しました。
(平成 22 年度)

名古屋のびのび子育てサポート事業の会員数が増加しました。

年 度	19 年度	20 年度	21 年度	22 年度
会員数	3,727 人	4,430 人	5,219 人	5,904 人

【緑豊かなまちづくり】

「なごや東山の森づくり」において「なごや東山の森づくりの会」の育成支援を行うとともに、森づくり活動を行い、「なごや西の森づくり」において、植樹祭を開催するとともに、森づくり関連講座などを行うなど、市民・企業・行政の協働による森づくり活動を実施しました。
(平成 19～22 年度)

【防災協働社会の構築】

「助け合いの仕組みづくり」として、災害発生時における地域の自主的な安否確認や、救助及び避難支援などの取り組みを明らかにし、その支援のあり方を決めました。
(平成 19 年度)

「助け合いの仕組みづくり」を広報するとともに、「助け合いの仕組みづくり」に基づく市民の方の取り組みを支援しました。(平成 20～22 年度)

ア 協働によるまちづくりの推進(つづき)	協働による防火防災事業や防災安心まちづくり強化推進学区事業を実施しました。(平成 19～22 年度) 「地域防災協力事業所表示制度」を創設・活用し、大規模災害時における地域と事業所との支援協力体制づくりの推進を図りました。(平成 20～22 年度) 地域の方々と協働して、地下式給水栓の操作や下水道直結式仮設トイレの設置訓練を実施しました。 (平成 19～22 年度)
イ NPO・市民との協働・連携の推進	なごやボランティア・NPOセンターの運営、NPO活動支援施設の提供を行いました。(平成 19～22 年度) 児童虐待防止に取り組んでいるNPO法人と協働して、児童虐待防止の啓発活動を実施しました。(平成 20～22 年度) NPO等市民活動団体が、社会問題の解決に貢献し、自主的・自立的に活動できるよう成長を支援する方策について検討するため、名古屋市市民活動促進委員会を設置しました。(平成 22 年度) 市民活動団体・NPOとの協働について理解を深めるとともに、より良い協働を実現するため「市民活動団体との協働の手引書」を作成しました。(平成 22 年度) 子ども・子育て支援センターにおけるキッズパークの運営や講座・イベントの企画・運営などを通じ、子育て支援団体と協働で事業を進めました。(平成 19～22 年度) 「ばすちか‘お助け’ボランティア」により、地下鉄駅や市バスターミナルで、乗り換えの案内や高齢者の方などの荷物の運搬などをお手伝いいただきました。 (平成 19～22 年度)

３．行政評価を行い、市政を点検します。

３ - １ 行政評価の実施・活用	
ア 事務事業評価の継続実施	平成 20 年度まで、第三者による外部評価を含めた事務事業評価を実施し、評価結果を公表しました。 ・施設の建設、整備事業及び施設の管理運営(417 事業)を対象に、外部評価を含めた事務事業評価を実施し、市公式ウェブサイトで公表しました。(平成 19 年度) ・平成 17 年度から 19 年度の外部評価結果を踏まえ、改革改善の取組状況の点検などを行い、市公式ウェブサイトで公表しました。(平成 20 年度) 企業局(上下水道局、交通局)においても、平成 20 年度まで事務事業評価を実施し、評価結果を局ウェブサイトで公表しました。(平成 19～20 年度) 新たな行政評価について検討しました。 ・他都市の状況等の調査を進め、新たな手法の実施に向けて検討を進めました。(平成 21 年度) ・施策の観点を重視し、市民参加を取り入れた新たな行政評価について検討し、平成 23 年度に実施することを決定しました。(平成 22 年度)
イ 事前評価の検討・導入	大規模な事業については、事業着手前に費用対効果などについて検討し、基本計画を策定して市民意見を聴取するなどの取り組みを行っています。全庁・横断的な事前評価については、様々な事業がある中で、結果・成果が出ていない事前の段階での評価を有効に行う手法が定まっていないところです。 ・他都市の状況を調査・研究しながら、効果的な方策について検討しました。(平成 19～22 年度)

4 . 低コストで良質なサービスを提供します。

4 - 1 計画的な定員管理

ア 定員見直しの 推進	平成 18 年度から平成 22 年度の 5 年間で職員数を 2,300 以上純減するという計画の成果目標に対し、事務の簡素化・集約化や委託化・嘱託化を推進することなどにより、職員数を 3,109 人純減しました。 <table><tr><td>区 分</td><td>18 年度</td><td>19 年度</td><td>20 年度</td><td>21 年度</td><td>22 年度</td></tr><tr><td>予算定員</td><td>1,593 人</td><td>319 人</td><td>269 人</td><td>467 人</td><td>287 人</td></tr><tr><td>派遣職員</td><td>628 人</td><td>220 人</td><td>190 人</td><td>108 人</td><td>284 人</td></tr><tr><td>合 計</td><td>965 人</td><td>539 人</td><td>459 人</td><td>575 人</td><td>571 人</td></tr></table>	区 分	18 年度	19 年度	20 年度	21 年度	22 年度	予算定員	1,593 人	319 人	269 人	467 人	287 人	派遣職員	628 人	220 人	190 人	108 人	284 人	合 計	965 人	539 人	459 人	575 人	571 人
区 分	18 年度	19 年度	20 年度	21 年度	22 年度																				
予算定員	1,593 人	319 人	269 人	467 人	287 人																				
派遣職員	628 人	220 人	190 人	108 人	284 人																				
合 計	965 人	539 人	459 人	575 人	571 人																				
イ 定員管理手法 の改善	計画の成果目標（職員数 2,300 人以上の純減）の達成に向けて、平成 19 年度から平成 22 年度の 4 年間トータルの定員配分を決定し、その間の柔軟な定員配置を行う「複数年度にわたる定員管理」を実施しました。（平成 19～22 年度） 区役所の定員管理において、定員管理担当部署が各区の定員課題についてのヒアリングを実施するとともに、幹事区長が定員に関する市全体の方針決定の場である経営会議へ参画することとしました。（平成 21～22 年度） 各業務の対象人口や事務量計算などの指標に基づき、区役所間のアンバランスを是正しました。（平成 21 年度）																								

4 - 2 公共サービスの改革

ア 事業の廃止・民営化	公的関与のあり方に関する点検指針に基づき、事務事業評価の結果を活用するなどして、民間委託などを始め、以下のような取り組みを実施しました。 ・本庁舎清掃業務の民間委託化の拡大(平成 19 年度) ・本庁舎の夜間警備の全部委託(平成 19 年度) ・消防活動用車両等の整備業務の民間委託化 (平成 19 年度) ・市バス大森営業所の管理の委託及び地下鉄上飯田線運転業務の委託(平成 19 年度) ・保健所検診業務の民間委託化の拡大(平成 20 年度) ・守衛業務の民間委託化の拡大(平成 21 年度) ・市バス浄心営業所の管理の委託(平成 21 年度) ・ごみ収集業務(中区)の民間委託化(平成 22 年度)
イ 事業の民間委託	

ア 事業の廃止・民営化 及び イ 事業の民間委託 のつづき	・地下鉄駅務業務(7 駅)の委託(平成 22 年度) ・公用車運転業務の民間委託化・嘱託化の拡大 (平成 19～22 年度) ・社会福祉施設等で炊事業務の民間委託化の拡大 (平成 19～22 年度) ・学校用務員と給食調理員の嘱託化の拡大 (平成 19～22 年度) ・土木事務所補修作業の民間委託化・嘱託化の拡大 (平成 20～21 年度)																		
ウ P F I の導入 推進	鳴海工場及び守山スポーツセンターの整備・運営事業について、P F I 事業として推進し、両施設とも建設工事完了に伴い運営を開始しました。(鳴海工場は平成 21 年度から、守山スポーツセンターは平成 22 年度から運営を開始)																		
エ 市場化テスト の導入検討	他の地方公共団体の状況等を調査しながら、課題や効果について検討を進めました。(平成 19～22 年度)																		
4 - 3 外郭団体等の改革																			
ア 外郭団体への 関与の見直し	平成 20 年度に設置した外郭団体改革推進室において、「外郭団体のあり方」を策定し、補助金や人的支援など、本市の外郭団体に対する関与の考え方を整理しました。 (平成 20 年度) 外郭団体の徹底検証の取り組みを通じて、随意契約の見直しや委託料・補助金の削減を行いました。 (平成 21～22 年度) 外郭団体への経常的な財政支出(委託料及び補助金)について、平成 17 年度予算との比較で、平成 22 年度予算において 154 億円削減しました。 <table><tr><td>区 分</td><td>17 年度</td><td>19 年度</td><td>20 年度</td><td>21 年度</td><td>22 年度</td></tr><tr><td>予算額</td><td>449億円</td><td>416億円</td><td>412億円</td><td>413億円</td><td>295億円</td></tr><tr><td>対 17 比</td><td>-</td><td>33億円</td><td>37億円</td><td>36億円</td><td>154億円</td></tr></table>	区 分	17 年度	19 年度	20 年度	21 年度	22 年度	予算額	449億円	416億円	412億円	413億円	295億円	対 17 比	-	33億円	37億円	36億円	154億円
区 分	17 年度	19 年度	20 年度	21 年度	22 年度														
予算額	449億円	416億円	412億円	413億円	295億円														
対 17 比	-	33億円	37億円	36億円	154億円														

イ 外郭団体の自主的・自立的な経営改善の促進	外郭団体が策定した経営改善計画の進捗状況、取組内容、各団体の正規職員の給与情報(平成 20 年度から)などを「名古屋市外郭団体の概要」にまとめ、市公式ウェブサイトなどで公表しました。(平成 19～22 年度) 各外郭団体において、平成 23 年度から平成 25 年度を計画期間とする経営戦略計画を策定しました。(平成 22 年度) さらなる外郭団体の統廃合等を進め、平成 17 年度に 49 団体あった外郭団体について、平成 22 年度末において 34 団体としました。 <table><tr><td>区 分</td><td>17 年度</td><td>19 年度</td><td>20 年度</td><td>21 年度</td><td>22 年度</td></tr><tr><td>団体数</td><td>49 団体</td><td>43 団体</td><td>44 団体</td><td>41 団体</td><td>34 団体</td></tr><tr><td>対 17 比</td><td>-</td><td>6 団体</td><td>5 団体</td><td>8 団体</td><td>15 団体</td></tr></table>	区 分	17 年度	19 年度	20 年度	21 年度	22 年度	団体数	49 団体	43 団体	44 団体	41 団体	34 団体	対 17 比	-	6 団体	5 団体	8 団体	15 団体
区 分	17 年度	19 年度	20 年度	21 年度	22 年度														
団体数	49 団体	43 団体	44 団体	41 団体	34 団体														
対 17 比	-	6 団体	5 団体	8 団体	15 団体														
ウ 地方独立行政法人の経営改革の推進	市長が定めた中期目標に基づき公立大学法人名古屋市立大学が策定した「中期計画」及び「年度計画」の着実な達成に向け、適切な進行管理を実施しました。 ・名古屋市公立大学法人評価委員会において、公立大学法人名古屋市立大学の業務実績に関する評価を行いました。(平成 19～22 年度) ・同委員会において、中期目標期間(平成 18～23 年度)の中間点における総括を行いました。(平成 21 年度)																		
4 - 4 公の施設等の見直し																			
ア 公の施設の見直し	本市の施設を対象に行政評価を実施し、評価結果を踏まえて、施設のあり方や運営改善方策について検討を行いました。(平成 19 年度)																		
イ 公の施設以外の施設の運営改善等	本市の施設のあり方などについて検討し、施設ごとの方向性及び取り組みの考え方を取りまとめ、市公式ウェブサイトなどで公表しました。(平成 20 年度) 施設のあり方や運営主体などの見直しについて、以下のよう取り組みを実施しました。 ・則武保育園の老朽化に伴う廃園(平成 19 年度) ・市立ユースホステルの廃止(平成 19 年度) ・青年の家(3 館)の廃止(平成 19 年度)																		

ア 公の施設の見直し及び イ 公の施設以外の施設の運営改善等のつづき	・ 指定管理者制度の導入（平成 19 年度～22 年度）										
	<table><tr><td>区 分</td><td>19 年度</td><td>20 年度</td><td>21 年度</td><td>22 年度</td></tr><tr><td>施設数</td><td>3 施設</td><td>4 施設</td><td>8 施設</td><td>18 施設</td></tr></table>	区 分	19 年度	20 年度	21 年度	22 年度	施設数	3 施設	4 施設	8 施設	18 施設
	区 分	19 年度	20 年度	21 年度	22 年度						
	施設数	3 施設	4 施設	8 施設	18 施設						
	・ 幼稚園の廃園（平成 20～21 年度）										
	<table><tr><td>区 分</td><td>20 年度</td><td>21 年度</td><td>22 年度</td></tr><tr><td>廃止施設数</td><td>1 施設</td><td>2 施設</td><td>1 施設</td></tr></table>	区 分	20 年度	21 年度	22 年度	廃止施設数	1 施設	2 施設	1 施設		
	区 分	20 年度	21 年度	22 年度							
	廃止施設数	1 施設	2 施設	1 施設							
	・ 公設市場の廃止（平成 20～22 年度）										
	<table><tr><td>区 分</td><td>20 年度</td><td>22 年度</td></tr><tr><td>廃止施設数</td><td>2 施設</td><td>1 施設</td></tr></table>	区 分	20 年度	22 年度	廃止施設数	2 施設	1 施設				
区 分	20 年度	22 年度									
廃止施設数	2 施設	1 施設									
・ 冷水プール 3 施設の廃止（平成 21 年度）											
・ 中央児童館の廃止（平成 22 年度）											
公立保育所の民間移管に取り組みました。											
・ 早急に移転や改築などを進める必要がある 3 公立保育所について民間移管計画を策定・公表しました。 （平成 19 年度）											
・ 民間移管を計画している 3 保育所のうち、2 保育所の移管先法人の選定を行いました。（平成 20 年度）											
・ 民間移管を計画している 3 保育所のうち、1 保育所の移管先法人の選定を行いました。（平成 21 年度）											
・ 公立保育所の民間移管や統廃合、改築などについて、その基準や考え方などを定める「名古屋市公立保育所整備計画」を策定しました。（平成 21 年度）											
・ 平成 23 年度整備予定の 1 保育所について、保育所整備運営法人の選定を行いました。（平成 22 年度）											
4 - 5 公共施設の管理手法等の改善											
ア アセットマネジメントシステムの導入	アセットマネジメントシステムの導入を進めました。 ・ アセットマネジメントシステムの導入に向け、名古屋市アセットマネジメント推進検討委員会を設置し、全庁的な検討を進めました。（平成 19～20 年度） ・ 「名古屋市アセットマネジメント基本方針」を策定し、市公式ウェブサイトで公表しました。（平成 20 年度） ・ 「名古屋市アセットマネジメント基本方針」に基づき、市設建築物の長寿命化に向けた構造体耐久性調査を実施しました。（平成 21～22 年度）										

ア アセットマネ ジメントシス テムの導入 のつづき	・ 公共土木施設の最適維持管理計画の策定に向けて検討を行うとともに、一部の公共土木施設から、長寿命化に向けた計画的・効率的な維持管理を実施しました。 (平成 22 年度)
イ 公共工事の コスト縮減	建設系 5 局（環境局・住宅都市局・緑政土木局・上下水道局・交通局）の発注工事について、計画・設計方法を見直すなどコスト縮減に努めました。(平成 19～22 年度)

5 . 迅速で便利なサービスを提供します。

5 - 1 区役所の改革	
ア 区役所改革基本計画の策定・推進	「市民サービスの向上」「地域支援体制の強化」「区役所の機能強化」「職場風土の改革」の 4 つを柱に掲げた「区役所改革基本計画」を策定・公表しました。(平成 19 年度) 区役所改革基本計画に掲げた取り組みを実施しました。 ・日曜窓口の毎月実施 (平成 20～22 年度) ・区政運営方針の策定・公表 (平成 20～22 年度) ・フロアサービスの充実 (平成 21～22 年度) ・案内表示の改善や快適な待合スペースの拡充等の窓口整備 (平成 22 年度) ・区役所に企画経理室を設置 (平成 22 年度) ・証明書交付センターの設置により、郵送で請求のあった住民票の発行事務を集約化 (平成 22 年度) 区役所の更なる改革を推進し、地域の総合行政機関としての機能強化を図るため、「新たな区役所改革計画」を策定・公表しました。(平成 21 年度)
5 - 2 電子市役所の推進	
ア 電子申請システムの運用・拡充	電子申請システムについて、より一層市民の皆様に利用していただけるよう、利用者ニーズを踏まえながら、申込みができる行催事や届出・手続を拡大するとともに、操作性の向上に取り組み、利便性の向上を図りました。 (平成 19～22 年度)
イ 市税電子申告システムの運用・拡充	市税電子申告システムの対象税目として、個人市民税 (特別徴収)、事業所税を追加しました。(平成 19 年度) 日本年金機構、国税庁からの税に関する情報について電子申告システムを通じて電子データで取得するよう変更し、課税事務を効率化しました。(平成 21～22 年度)

イ	市税電子申告システムの運用・拡充のつづき	電子申告対象税目を対象に、ＡＴＭ等からの納付を可能とする電子納税サービスの提供を開始し、納税される方の利便性の向上を図りました。（平成 22 年度）										
ウ	市民サービス向上・事務の効率化をめざした各種システム整備	戸籍電算システムを 13 区、4 支所において稼働しました。 <table><tr><td></td><td>19 年度</td><td>20 年度</td><td>21 年度</td><td>22 年度</td></tr><tr><td>稼働区</td><td>3 区</td><td>4 区 1 支所</td><td>3 区 2 支所</td><td>3 区 1 支所</td></tr></table> 市立大学病院と市立病院の間で、病院情報システム（電子カルテシステム）を活用した連携システムの運用を開始しました。 ・市立大学病院と東部医療センター東市民病院において連携システムを稼働(平成 20 年度) ・東部医療センター守山市民病院において電子カルテシステムを稼働（平成 21 年度） ・市立大学病院、東部医療センター東市民病院と東部医療センター守山市民病院において連携システムを稼働（平成 22 年度） ・西部医療センターにおいて電子カルテシステムを構築（平成 22 年度） 建設ＣＡＬＳに必要なシステムを整備し、工事及び業務委託において電子納品を実施しました。 ・設計、開発の完了（平成 19 年度） ・運用を開始し、工事及び業務委託の一部について電子納品を実施（平成 20～22 年度） 生涯学習センターの講座について、電子申請システムで申し込みが行えるようにしました。（平成 20～22 年度） インターネットによる図書等の予約受付を開始し、図書館利用者の利便性の向上を図りました。 ・図書の予約受付の開始（平成 21 年度） ・雑誌、視聴覚資料への予約受付の拡大（平成 22 年度）		19 年度	20 年度	21 年度	22 年度	稼働区	3 区	4 区 1 支所	3 区 2 支所	3 区 1 支所
	19 年度	20 年度	21 年度	22 年度								
稼働区	3 区	4 区 1 支所	3 区 2 支所	3 区 1 支所								
エ	内部管理事務の集約化等の推進	委託可能な給与事務の一部について、委託を実施しました。（平成 22 年度）										

オ 電子市役所の 基盤整備	平成 20 年度までに市役所と支所などの間の光ファイバー網の整備などを完了するとともに、整備した通信機器などの維持管理を引き続き行いました。 ・市役所と志段味支所、志段味図書館の間に光ファイバー網を整備し、志段味図書館に公共情報端末を設置 (平成 19 年度) ・市役所と南陽支所、南陽図書館の間に光ファイバー網を整備し、南陽図書館に公共情報端末を設置(平成 20 年度)										
カ 情報システム のコスト等の 検証	技術進歩が速い I C T に対し、実務経験の豊富な外部の専門家の活用により的確な評価を行い、情報システムの適正化を推進しました。 ・業務のシステム化にあたって、技術面、経費面の妥当性について審査を実施（平成 19 年度～22 年度） ・情報システムを所管する部署に対して、外部の専門家による見積書などについての助言・指導を実施 (平成 20～22 年度) ・情報システム全体最適化計画の策定（平成 22 年度）										
キ 電子情報保護 対策の適切な 実施	e-ラーニングの導入などにより電子情報保護に関する職員研修の充実を図りました。（平成 19～22 年度） 個人情報を取り扱う主要なオンラインシステムのセキュリティ対策について、外部検証を実施しました。 <table><tr><td></td><td>19 年度</td><td>20 年度</td><td>21 年度</td><td>22 年度</td></tr><tr><td>システム数</td><td>10 システム</td><td>6 システム</td><td>6 システム</td><td>3 システム</td></tr></table> 情報システムのセキュリティ対策についての監査を推進するため、監査の実施体制・手順などを定めた「情報システム導入・運用ガイドライン（監査編）」を策定しました。 (平成 22 年度)		19 年度	20 年度	21 年度	22 年度	システム数	10 システム	6 システム	6 システム	3 システム
	19 年度	20 年度	21 年度	22 年度							
システム数	10 システム	6 システム	6 システム	3 システム							

創造的な改革改善に取り組む体制づくり・ 市民に信頼される市役所づくり

6 - 1 改革を担う人材の確保・育成	
ア 人材確保策の 充実	民間企業等職務経験者採用試験を行うことで、幅広く優秀な人材の確保に努めました。(平成 19～22 年度) 多様な雇用形態の活用の一つとして、一般職の任期付職員の検討を行いました。(平成 19～22 年度) 将来の受験者確保のため、大学 1・2 年生を対象とした本市の若手職員による説明会を行いました。(平成 22 年度)
イ 人的資源の 開発・活用	新規採用者研修において、研修の時期を前・中・後期の 3 回に分け、それぞれの時期に必要となってくる内容を盛り込むことで、より質の高い行政サービスの提供ができる職員の育成を目指しました。(平成 20～22 年度) 係長昇任選考について、人物的側面をより重視した試験制度の検討を進め、その一部について先行実施しました。 ・一部先行実施(平成 22 年度)
ウ 団塊の世代の 大量退職への 対応	再任用職員数を大幅に増加させました。(平成 19～22 年度) 様々な職種及び役職ポストに再任用職員を配置しました。 (平成 20～22 年度) 職場内研修を通じて保有する知識・技術の伝承を行う意欲のある再任用職員を知識技術指導員として配置しました。 (平成 21～22 年度)
エ 新たな評価 制度の実施	公正で透明性・納得性の高い新たな評価制度について試行を実施し、その結果を検証するなど、導入に向けての検討を進めました。(平成 19～22 年度)
オ 新たな昇給 制度への移行	新たな昇給制度に移行し、給料表の 4 分割化・昇給時期の統一を実施しました。(平成 20 年度) 新たな評価制度の試行結果を踏まえ、昇給制度への反映について検討を行いました。(平成 19～22 年度)

カ 働きやすい 職場づくり	「名古屋市職員子育て支援プログラム」及び「第２期名古屋市職員子育て支援プログラム」に基づき、職員の仕事と子育ての両立支援に努めました。 ・仕事と子育て両立支援相談員の設置（平成 19 年度） ・育児休業者職場復帰支援研修の実施（平成 19～22 年度） ・新任課長等の次世代育成支援研修の実施（平成 19～22 年度） ・第２期名古屋市職員子育て支援プログラムの策定（平成 21 年度） ・職員子育て支援ハンドブックの作成（平成 22 年度） 職員の健康管理及びメンタルヘルス対策を実施しました。 ・生活習慣病検診等各種健康診断及びそれに基づく保健指導の実施（平成 19～22 年度） ・ストレスチェックの実施（平成 19～22 年度） ・職場ストレス対策研修の実施（平成 20～22 年度） ・「名古屋市職員心の健康づくり計画」の策定（平成 21 年度） ・「名古屋市職員こころの日」及び「メンタルヘルス推進月間」の取り組みの実施（平成 22 年度）
キ 職員の意欲を 高める風土づ くり	職員の自己啓発を支援してやる気を引き出したり、各種研修を実施することで職員の能力・意欲の向上に取り組みました。 ・ジャンプアップ研修の実施（平成 19～22 年度） ・行政窓口英会話研修の実施（平成 19～22 年度）
ク コミュニケー ション環境の 醸成	各局区室のトップの職員にインタビューを行い、イントラネットを使ってその内容を全職員に発信する「職員メッセージ」を実施しました。（平成 19～22 年度） オフサイトミーティングである「オープンサロン」を開催し、職員間のコミュニケーションの活性化を高める場を作りました。（平成 20～22 年度）

6 - 2 全庁的な改革改善運動	
ア さわやか市民サービス運動	「さわやか市民サービス運動」を実施し、職員の接客能力の向上に努めました。 ・さわやかマナー向上月間（４月）の設定 (平成 19 年度) ・窓口アンケートの実施（平成 19～22 年度） ・「３ステップ！あいさつ運動」の実施（平成 19～20 年度） ・「はじめとおわりのイメージＵＰ」の実施 (平成 21～22 年度)
イ すみやか業務改善運動	「すみやか業務改善運動」を実施し、各職場における自主的・継続的な業務改善の取り組みを推進しました。 ・草の根業務改善の実施（平成 19～22 年度） ・なごやかカップの実施（平成 19～22 年度）
ウ すこやか風土改革運動	「すこやか風土改革運動」を推し進め、職員一人ひとりの公務員倫理とコンプライアンス意識の高揚を図るとともに、仕事に対する誇りと使命感を共有できる自律性の高い風通しのよい職場風土づくりに努めました。 ・公務員倫理研修指導者養成研修の実施 (平成 19～22 年度) ・「職場風土改革月間」の設定（平成 19～22 年度）
エ 新たな改革改善の取り組み	交通局では、ISO9001 の認証取得を契機に“ありがとう”宣言を実施し、職員が一丸となって接客サービス水準の向上を図りました。（平成 19～22 年度） 上下水道局では、「お客さまサービス向上運動」の実施や、「アメンボネット（「お客さまの声」集約・発信システム）」を活用したお客さまの声の職員間での共有により、お客さまサービスの向上に努めました。（平成 19～22 年度）
6 - 3 経営戦略機能の強化	
ア 経営会議・経営アドバイザーの活用	経営会議を開催し、予算編成、定員管理、総合計画といった市政における重要事項について議論・意思決定を行うとともに、経営アドバイザーから、市政運営に関する客観的かつ専門的な意見をいただきました。（平成 19～22 年度）

イ	局経営方針の策定	市の行政運営システム間の連携を図ることができるよう、局経営方針のあり方について内部検討を実施しました。 (平成 19～22 年度)										
ウ	区政運営方針の策定	「区役所改革基本計画」(平成 19 年 12 月策定)に基づき、区役所が主体的に実施する取り組みについての具体的な内容を含め、区政の重点的な取り組みや目標を区ごとに定める「区政運営方針」を策定・公表し、進行管理を行いました。 (平成 20～22 年度)										
6 - 4 時代に即応した組織改革												
ア	重要課題に対応する戦略的な組織づくり	複雑・多様化する行政課題に迅速に対応するため、副市長によるトップマネジメント体制の強化を図るとともに、重要課題の取り組みを進めることができるよう、市長・副市長を支える体制の整備を行いました。 (平成 19～22 年度)										
イ	団塊の世代の大量退職に対応した組織の見直し	効率的・効果的な行政運営をめざして行政組織の見直しを進め、役割や機能の低下した組織について廃止しました。 (平成 19～22 年度)										
ウ	区単位の事務所等のあり方の検討	平成 22 年 3 月に策定・公表した「新たな区役所改革計画」に基づき、区役所と区ごとに設置している環境事業所、土木事務所及び消防署との連携強化を図りました。 (平成 22 年度) 区ごとに設置している各営業所のあり方と機能、役割を踏まえ営業所体制の見直しについて検討し、平成 23 年度から実施することとしました。また、配水事務所・管路事務所の所管区域の見直しや統合の推進などについて、検討しました。 (平成 19～22 年度)										
エ	審議会の見直し	審議会を廃止したほか、「名古屋市審議会の委員の選任に関する要綱」に基づき、審議会の適切な運営に努めました。 (平成 19～22 年度)										
		<table><tr><td>年 度</td><td>19 年度</td><td>20 年度</td><td>21 年度</td><td>22 年度</td></tr><tr><td>廃 止</td><td>4 審議会</td><td>1 審議会</td><td>1 審議会</td><td>1 審議会</td></tr></table>	年 度	19 年度	20 年度	21 年度	22 年度	廃 止	4 審議会	1 審議会	1 審議会	1 審議会
年 度	19 年度	20 年度	21 年度	22 年度								
廃 止	4 審議会	1 審議会	1 審議会	1 審議会								

オ 市立病院における地方公営企業法の全部適用の実施	市立病院に地方公営企業法の全部適用を実施し、病院局を設置しました。(平成 20 年度)
6 - 5 市民に信頼される市役所づくり	
ア 職員の倫理意識の向上	職員倫理審査会による審査や、階層別倫理研修をはじめとしたコンプライアンスに関する研修などにより、職員の倫理意識の高揚を図りました。(平成 19～22 年度) 「職場風土改革月間」の取り組みを継続的に行うなど「すこやか風土改革運動」を推し進め、職員一人ひとりの公務員倫理とコンプライアンス意識の高揚を図るとともに、仕事に対する誇りと使命感を共有できる自律性の高い風通しのよい職場風土づくりに努めました。 (平成 19～22 年度)
イ 法令順守の徹底	適正職務サポート制度の適切な運営を通し、公平・公正かつ適正な職務執行の確保を図りました。(平成 19～22 年度)
ウ 契約事務の改善	平成 18 年度に導入した総合評価落札方式による入札の試行を拡大するとともに、評価項目と配点の改定や、低入札価格の失格基準導入など制度の改善を行いました。(平成 19～22 年度) 建築物清掃・警備委託業務についての契約事務を、財政局で一元的に実施することとしました。(平成 20 年度)

成果目標

計画を着実に実行するため、次の事項については、成果目標を掲げて積極的に取り組みました。

1. 市民ニーズをしっかりと把握します。

(1) ホームページの総アクセス件数 (17 年度 : 2,637 万件)

【目標】平成 22 年度時点 6,000 万件

【結果】

年 度	19 年度	20 年度	21 年度	22 年度
アクセス件数	3,698 万件	3,987 万件	4,463 万件	4,646 万件

2. 市民の皆様とともに市政をすすめます。

(2) 公募制を導入している審議会数 (17 年度 : 4 審議会)

【目標】平成 22 年度時点 20 審議会

【結果】

年 度	19 年度	20 年度	21 年度	22 年度
審議会数	19 審議会	19 審議会	19 審議会	20 審議会

(3) 市内に主たる住所のある N P O 法人数 (17 年度 : 457 団体)

【目標】平成 22 年度時点 700 団体

【結果】

年 度	19 年度	20 年度	21 年度	22 年度
NPO 法人数	582 団体	621 団体	666 団体	723 団体

3. 行政評価を行い、市政を点検します。(数値は平成 22 年度当初までの目標)

(4) 行政評価 (17 年度事務事業数 : 1,900)

【目標】平成 22 年度時点 全事務事業の 10% (190 事業) 以上をシフト

【結果】 予算反映分

年 度	19 年度	20 年度	21 年度	22 年度
シフト事業率	—	9.8%	11.3%	12.3%
シフト事業数	—	186 事業	215 事業	233 事業

4. 低コストで良質なサービスを提供します。(数値は平成 22 年度当初までの目標)

(5) 職員数 (17 年度 : 29,596 人)

【目標】平成 22 年度時点 2,300 人 (7.8%) 以上純減

【結果】 毎年度 4 月 1 日

年 度	19 年度	20 年度	21 年度	22 年度
削減数	—	1,963 人	2,538 人	3,109 人
削減率	—	6.6%	8.6%	10.5%

(6) 外郭団体の常勤役員数の削減(17年4月1日:124人)

【目標】平成22年度時点 13人(10%)削減

【結果】 毎年度4月1日

年 度	19年度	20年度	21年度	22年度
削減数	—	18人	22人	33人
削減率	—	14.5%	17.7%	26.6%

(7) 外郭団体の常勤職員数の削減(17年4月1日:4,275人)

【目標】平成22年度時点 214人(5%)削減

【結果】 毎年度4月1日

年 度	19年度	20年度	21年度	22年度
削減数	—	496人	581人	1,517人
削減率	—	11.6%	13.6%	35.5%

(8) 外郭団体へ経常的な委託料及び補助金を削減(17年度当初予算:449億円)

【目標】平成22年度時点 45億円(10%)削減

【結果】 予算反映分

年 度	19年度	20年度	21年度	22年度
削減額	—	37億円	36億円	154億円
削減率	—	8.2%	8.0%	34.3%

5. 迅速で便利なサービスを提供します。

(9) 電子申請システムの利用率(17年度未実施)

【目標】平成22年度時点 50%

【結果】

年 度	19年度	20年度	21年度	22年度
利用率	28.8%	39.7%	48.5%	53.3%

(10) 市税電子申告システムの利用率(18年1月~3月:0.1%)

【目標】平成22年度時点 50%

【結果】

年 度	19年度	20年度	21年度	22年度
利用率	3.1%	25.7%	28.5%	41.9%

(11) 電子市役所の推進に必要な電子情報の保護対策としてのセキュリティ向上研修の修了所属数の割合(17年度:21%)

【目標】平成22年度時点 100%

【結果】

年 度	19年度	20年度	21年度	22年度
利用率	58.5%	90.3%	96.9%	97.2%

